

2019年11月18日

2020年3月期第2四半期 決算説明会における質疑応答の要旨

日 時： 2019年11月11日（月）13:00～14:00
場 所： トラストシティ カンファレンス・丸の内
説明者： 代表取締役社長 小川 育三
取締役執行役員 経理企画室長 町田 研一郎

Q：吸水性樹脂事業の販売について、足元の状況及び今下期の見通しはどのような状況か。

A：本年12月までは前年並みか前年より若干落ちる程度を想定しており、比較的堅調に受注が戻りつつある。ただし、下期の業績については、年明けからの不需要期を前提に一定の減少を加味した保守的な見方をしている。

Q：SAPについて、住友精化と中国ローカルメーカーとの性能差はどのような状況か。

A：SAPそのものの性能と紙おむつメーカーによるSAPの使いこなし技術の2つが数年前と比べて相当伸びており、以前よりも当社の優位性は低下している。

Q. 競合他社と比較して業績の振れ幅が大きいのは、中国市場での住友精化の市場占有率が高いことによるのか。

A. 中国向けの販売はミドルからハイエンドが主であるが、そのうちミドルが少しずつ浸食されており、その部分の影響が大きいことで、他社と比較して振れ幅が大きく出ている要因と考えている。

Q. 中期経営計画での2019年度と2022年度の営業利益分析において吸水性樹脂セグメントはどのように織り込まれているのか。

A. 合理化効果が売価差によりほぼ相殺され、数量増分とその他であとどれだけ利益を積み増せるかによる。

Q. 合理化効果は、数量が出ることが前提条件と思われるが、その理解でよいのか。また、中国市場の見方はどうか。

A. 合理化の目標数値を達成するためには増販が不可欠である。
また、中国をはじめ北米、欧州、アジアへの増販については、合理化を進めたことでいずれも自信をもって価格交渉を進める目途がついた。これにより増販は現実的なターゲットと考えており、是が非でも達成したい。

Q. SAPシート向けの販売状況と2022年度に向けての価格の状況を教えてほしい。

A. 現在でもSAPシート向けが中国における主力のマーケットであり、非常に大きな量が同用途向けに流れている。量的には昨年よりも若干減っている程度である。
価格については、他社との価格差がユーザーの許容範囲から少しはみ出したところがあり、これに対応するため値下げを行っている。当社だけが下げているということではなく他社も下げている、他社品との値差はキープできている状況である。

Q. 次世代の紙おむつ、次世代のSAPに関し、先進国で成長するとされている薄型の紙おむつに対してはどのようなSAPが求められるか。

- A. 先進国で求められるSAPは、男女を問わずシニア向けである。そこでは、紙おむつの着用を他人に悟られないことが極めて重要なポイントである。少しの尿漏れでもすぐに交換するため、SAPとしては非常に速いスピードで吸収することが求められる。一方、介護用では、量をたくさん吸ってためておける、例えば12時間程度おむつを替えなくてもお尻がサラサラしている状態が維持できるものならば、おむつ代が多少かかったとしても、介護費用を考えれば十分に価値に見合うものになるだろう。分野によって狙うSAPの性能は違ってくるが、においや抗菌性はすべての紙おむつに共通する課題である。

Q. 住友精化が中国で苦戦しているのは日系メーカー向けか、中国ローカルメーカー向けか、または、業界全体の動きの影響なのか。また、主要取引先へのシェアが低下しているのかを教えてください。

- A. 競合他社と比べてシェアが著しく変化しているということはない。中国以外の既存の顧客に対しては少し増減したということはあるけれどもそれほど大きな変動要因ではない。むしろ中国の顧客が使用量を急激に増やしたり減らしたりということの影響が大きい。中国のローカル紙おむつメーカーは数百社あり、これらの会社が每期激しい動きをすることが大きな変動要因となっている。当社は中国でのマーケットシェアが高いので、そういった動きの影響を受けやすく、他社と異なる動きになるとみている。

Q. 日本の紙おむつメーカーがリサイクルに力を入れており、使用済み紙おむつをリサイクルすると8割程度のSAPが再生され、衛生材料に利用できる目途が立っているという情報もあるが、将来的に住友精化のSAP事業にどのように影響するか教えてください。

- A. SAPの回収はいろいろなところで進められているが、SAPを回収して、リサイクルするには、技術的なハードルはまだ高いと思われる。そのため将来の収益性に目途を立てるまでには至っていない。SAPの環境負荷低減には2つ考え方がある。1つはリサイクルであるが、実はSAPの割合はそれほど大きくない。SAPは尿を吸収しており、これをリサイクルするには相当なエネルギーが必要で、技術的には可能だが、早期に実用化することは難しいと考えている。もう1つはSAPの使用量を徹底的に減らすことである。紙おむつ中のSAPが全量使われている紙おむつは世の中にはまだ無いと思う。紙おむつの形状、SAPの性能を改善することによって使用量を削減できれば、その分環境負荷を低減できることになる。当社はSAPメーカーであるから、SAPで環境負荷を下げる努力が必要と考える。

以上